

福岡小学校 外国語活動・外国語科 2月アンケート結果 考察

1 アンケート結果

- ・ 設問（1）に「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と前向きな回答をしたのが、5・6年生 77.2%，3・4年生 85.7%，1・2年生 94.6%である。設問（2）では、5・6年生 73.7%，3・4年生 83.7%，1・2年生 86.5%となっている。
- ・ 設問（3）では、5・6年生は①②が「分かる・できる」「だいたい分かる・できる」へと7月から大きく伸びている。また⑥については、「分かる・できる」が最も多く、向上したと感じている児童が多い。3・4年生は、どの項目も「分かる」が最も多く、51%～59.2%を占めている。
- ・ 設問（4）では、前向きな回答が5・6年生、3・4年生ともに 87.8%，設問（5）では5・6年生 86%，3・4年生 98%である。

2 今年度の成果

- 児童の意欲に当たる設問（1），主体性に当たる設問（2）が、7月の調査から伸びている。理由としては、設問（3）にあるように、児童が自分の英語力の向上を実感していることがあげられる。また、設問（4）（5）に分かるように、外国や外国語に対する関心が伸び、英語力が将来役立つとの希望を感じているからだと思われる。
- 今年度は小中接続を意識し、特に6年生では、音声と文字を一致させるための活動を増やした。また、タブレットを使って作品制作を行い、発表や作品掲示を行った。設問（3）から分かるように、聞くこと、話すことはもとより、読むこと、書くことにも、児童は自己の変容を認識しており、それは、児童が活動に達成感や成就感を感じているからだと考える。

3 今年度の課題

- 発表など、人前で話すことを苦手を感じる児童が一定数いることが、設問（3）や（4）からも分かる。学習（体験）した英語や活動内容を理解していても、自信をもつことのできない児童がいる。支援するための具体的な手段や手法を立案、実践していくことで、より多くの児童が達成感を得られるようになる。
- 年間指導計画に沿って活動や学習を進めているが、学級や児童の実態に応じて、ゆっくり進めたり、ある部分を重点的に行ったりすることも大切である。例えば、3・4年生ではアルファベットの文字に慣れ親しむが、全員が話せる、読めるようになることで、教科となる5年生への移行が円滑になる。

4 令和5年度の重点事項

- ◎ 「目的・場面・状況」を明確にして学習活動を行うこと。
児童が学習内容や活動に対して高い意欲を維持していくためには、何のために、何を、どのようにすればよいのかを理解しなければならない。特に、目的については、児童の好奇心を掻き立てるようなものをいくつか設定したい。
- ◎ 活動から教科へ、小学校から中学校へ円滑に移行すること。
アルファベット指導、及び語彙指導の充実、自信をもって楽しく活動できるよう声掛けや個別指導を柔軟に行う、評価方法の再検討を、計画、実践していく。
- ◎ 中学校や他小学校との交流授業を継続し、共通の目的を持って授業改善に努めること。